

プロポーズの舞台にふさわしい観光地「恋人の聖地」に認定されている那須塩原市の「もみじ谷大つり橋」が、地元と連携した誘客に熱心な聖地に贈られる「恋人の聖地 観光交流大賞」を受賞した。高

さ20歳以上の橋から望む渓谷は迫力満点。担当者は「心拍数の上昇が好意につながる『つり橋効果』も期待できる。人生を共にする2人に、手を携えて歩いてほしい」と語る。(大野暢子)

大つり橋 手をつなぐ恋

那須塩原・もみじ谷 「恋人の聖地 観光交流大賞」受賞

大つり橋は、塩原ダム湖にかかる全長三百二十歳の橋で、往復十

五〜二十分の空中散歩が楽しめる。新緑や紅葉の時季を中心に、年間十八万人前後が訪れる。

二〇一三年には、静岡市のNP

まじく見つめ合うクマタカのつがいの木像を設置。クマタカは周辺の山に生息するとされる希少な野鳥で、二つの像は、直径約八十センチある一本の県産杉から彫り上げられた。

〇法人「地域活性化支援センター」が、恋人の聖地に認定。地元では誘客への期待が高まったが、全国に百力所以上ある他の聖地との差別化を図るため、管理や運営を担う「たかはら森林組合」（矢板市）は、次の一手を迫られた。

像の前にハート形の木の椅子を置き、恋人の聖地をアピールする金の板を設けると、狙い通り、像の前で記念撮影をするカップルが増加。ハート形の葉をした「カツ

ラ」の木で作った丸い板に赤いひもを結わえた「愛結び」（一個税込み三百円）を販売し、二人の名を書いて像を囲む柵に結び付けてもらう試みも始めた。

田代和利・管理事務所長は「カップルの来場者は年々増えつつある。アクセスの良さは都会にかなわないが、地方ならではの誘客を大切にしたい」とし、「口コミで魅力が伝わり、幸せが幸せを呼ぶような観光地が目標」と力を込めた。

そこで一四年秋、聖地の新たな象徴として、対岸の広場に仲間つ

クマタカ木像や「地域ぐるみ」評価

紙を投函すると幸せになれる」とうたったピンク色の丸形ポストも設置。見どころの少ない春先の景観づくりのため、対岸広場や地域の空き地で、赤や白、ピンクの花

ている。こうした地域ぐるみの活動が認められ、大つり橋は三月、地域活性化支援センターの募集に名乗りを上げた全国の観光地五十七カ所を抑え、昨年の長野県大町市に続く第二回の観光交流大賞を獲得した。



恋人の聖地のシンボルとして作られたクマタカのつがいの木像

恋人の聖地
Yone Katsuta Eagles Sanctuary
那須塩原市

郵便
POST